



2020年8月3日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 17号

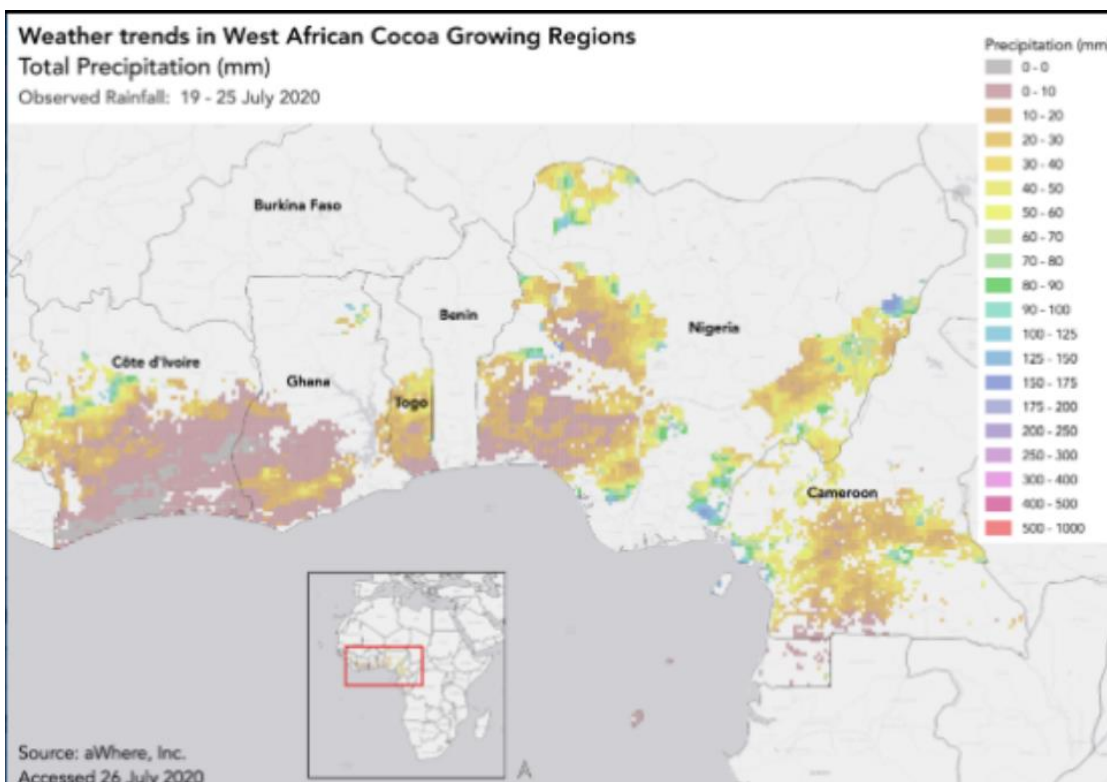
毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

ドル円は、先週久しぶりに大きく円高に進みました。金曜日にはかなり戻し、円だけでなく他通貨に対してもドル安は落ち着いた感が出てきています。カカオ先物は、両市場とも今まで売られ過ぎが続いていましたが、先週はNYが大きく上げて買いが先行しました。金曜日にはロンドンも追随するような雰囲気でも両市場とも上げています。アフリカの作柄予想も良く、また消費の見込みは厳しいままですが、先物価格のトレンドは潮目が変わりつつあるシグナルがいくつか出ています。長期では実需の通り、カカオは弱含むのかなという状況ですが、短期中期はトレンドで動いていきますので流れを抑えていくことが重要と思います。今までの弱気の雰囲気と少し変わり今週はどちらかという強気のトレンドの予想です。

1. コートジボワール、ガーナはメインクロップに向け理想的な環境が続く(7/28)

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールとガーナのカカオ生産者は、10月のメインクロップの作物の収穫に先立ち、理想的な降雨と日照りが混ざり合って、ココアの生育が進んでいると報告している。天候は良好な成長のために理想的な状況であり、今のところ木々は見栄えがよいと、コートジボワール南西部の町ザニアの生産者は述べている。また、隣接するガーナのヤカシ町で30エーカーの作物を栽培しているカカオ生産者によれば、土壌に十分な湿気があり良い環境だと述べた。

《西アフリカの降雨量7月19日—7月25日》



このような豊作の見通しは一か月ぶりの高値圏にまで上昇してきたNYのココアの先物価格に下方の圧力を加える可能性がある。ブルームバーグ社の調査チームは、毎週、西アフリカで最大の 카카오生産地域の農家を調査しています。先週のその他の生産国の主要なニュースは下記の通り。

カメルーンは主に輸送問題：

- 同国で2番目に大きい 카카오地帯である中心部の生産地域の農民たちは、この地域に残っている最後の 카카오豆の輸送を試みたが、最近大雨の最中に輸送のトラックが激しい雨により足止めされたことに残念がっていた。生産者によれば、この地域の生産拠点の1つである Ngoro からバフィアココア市場への 카카오の輸送に影響が出ているとのこと。
- 生産者たちによれば今週は雨が激しく、破壊的な打撃を受け、農場から市場への道路はほとんど通行できなくなり、生産者はモーターバイクで豆を運ぶことに頼りました。
- 「道路の状態が悪いため、買い手は奥地に来るのを思いとどまっています」と生産者たちは嘆いている。

カメルーンのカカオ生産地域は本当に雨の多い地域が多く、また道路事情も良くない為、雨が降るとすぐに車やトラックでの輸送に問題が出ます。下記の写真は以前、私がカメルーンに訪問した際の写真ですが、雨が降っていない時でも前日に雨が降って水はけの悪い道路だとこのような状態になり、足止めされます。また、突然のスコールも同様で、急激なスコールで、陸続きの場所にいながら車で移動できずに山の中で孤立することがあります。甘くない 카카오生産国の代表格です。



ナイジェリアは降雨の有無とブラックポッドの懸念：

- 南東部のイコム近くのヤウンデのカカオ生産者によると、現在この地域では降雨量が非常に多く、黒ポッド病の蔓延が抑制されている。
- 南東部の別の 카카오生産者は「これはメインクroppにとっての良い前兆であり、雨は1日おきにかなり激しく降っている」と述べた。
- 一方、南西部の一部では3週間雨が降っておらず、「土壌はまだ湿っていますが、雨が十分に早く帰ってこなければ、もうすぐ乾いてしまう可能性がある」と、オグン州の州都アベオクタの近くにある 카카오生産者は語った。
- 「今後の数週間は、 카카오のさらなる成長を促すのにとっても重要」と南西部の別の生産者は語った。

2. コートジボアール カカオ豆着荷状況 7/20-26 は 19,118 トンの集荷 (7/28)

コートジボワールの 7/20-26 の 1 週間でのカカオ集荷数量は 19,118 トンであった。昨年同時期の 1 週では 16,410 トンの集荷数量であった。また、シーズンが 10 月 1 日に始まってからの総到着数は **221.3 万トン**となっており、前年同時期の約 218 万トンを上回る数量となっています。

* 下記はコートジボアール産カカオの買い付けのトップ 5 企業と 7 月 26 日までの買い付け数量。コートジボアールでは国際的な需要者は国内に買い付けの為に会社を設立しており、生産者から政府の規定価格での買い付けを行う仕組みになっています。

会社名	購入数量(トン)
アウトスパン(オーラムのグループ)	318,816
カーギル	311,083
Saco(バリーカレボーグループ)	280,447
S3C	126,382
Sucden(フランスの商社)	123,972
Tuton(フランスの商社)	121,316
その他の企業	932,581
合計	2,213,967

3. モンデレス (キャドバリー) 社、チョコレート需要の回復を加速するのはアジア (7/29)

- モンデレス社によると、アジアのチョコ需要は 6 か月から 1 年で回復する
- 衝動買いが減少したため、消費は打撃を受けた

モンデレスインターナショナル（世界的に有名なキャドバリーブランドとトブラローネブランドのオーナー）は、アジアでのコロナ・ウィルスのパンデミックによる都市封鎖などの影響を受けた消費の後、アジアのチョコレートの需要復活が今後の世界のチョコ市場の成長を牽引すると予想しています。この数か月間は、家にいる消費者が食料雑貨を買いだめ、チョコレートのような嗜好品の衝動的な購入を少なくしたため、アジアでこれまで急増してきた需要一気に低迷させました。しかし、モンデレスは、この地域の消費が今後 6 か月から 1 年で回復すると予測しています。

「長期的には、アジアとその新興市場はチョコレート消費を牽引し続けるでしょう」とモンデレスの東南アジア向けチョコレートのマーケティング担当副ディレクターであるビクラムカーワルは語った。「これは、世界平均の約 2 倍の成長率で、当社の最も急成長している市場のままです。」

アジアはチョコレート生産者にとって最大の成長市場の 1 つであり、その地域の豊かさと成長するライフスタイルの変化により需要が急拡大してきた事により、同域内でのカカオ磨砕事業の規模も年々拡大してきた。しかし、20 年第二四半期はその需要はパンデミックの中で急に止まり、前年同四半期で 6% の減少となった。

《アジアのカカオ豆磨砕数量：四半期毎推移》



今後、アジアでチョコレートの需要がウイルスの影響から立ち直るのにしばらく時間がかかるだろうとカルワル氏は語った。それはチョコレートがより頻繁に消費されるヨーロッパとは対照的に、チョコレートがまだ特別な日のためのおやつとして見られているからです、と彼は言った。

モンデレスだけが、アジアの見通しについて前向きな期待を寄せているわけではありません。カカオ豆の加工大手のバリーカレポーAGは、アジア地域の需要が少しずつ改善し始めていることを示しており、次の3年間の販売量予測をわずかに引き上げた。

パンデミック主導の都市封鎖はまた、消費者がアジアでチョコレートを購入する方法を変えており、より多くの人々が今や軽食への欲求を満たすために電子商取引にシフトしている。

「私たちは、食品や食料品の購入や食品の配達のための電子商取引プラットフォームの使用が今後も引き続き堅調であると予測しています」と同氏は語った。「この期間中に多くの人々がデジタル化し、その利便性を感じ、今後は習慣なるとみています」

4. ガーナカカオ着荷数量は6月11日現在、752,639トンで前年を下回る(7/20)

ガーナの2019/2020シーズンのカカオの着荷数量は、身元は明かさなかったがその筋の情報に詳しい専門家によると、10月1日から始まった収穫分が、6月11日までガーナの港に運ばれた数量ベースで752,639トンとなったと述べた。このカカオ豆の数量は、業界規制当局であるガーナココアボードによってチェックを受け、品質の等級付けおよび麻袋のシールをされた正規品が対象の数値である。また、昨年同時期の5月30日までの同数量は776,418トンであったことから、前年より約2.5万トン少ない数量となっている。

5. ファンド勢のロンドンカカオ先物の売り越し更に高い水準に 19 か月ぶり更新(8/1)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋の売りポジションがかなり増加している。純売りポジション(=Net Short position)は今週には、前週から更に 4,124 ロット増やし、合計で 21,702 ロットに増加したことが、ICE EUROPE の発表しているデータから判明した。

- 純売りポジションは、過去 19 か月で一番弱気水準(=売り越しが多い)
- 買いポジションの総量は 7 月 28 日までで前週より 641 ロット減少して、12,759 ロットとなった。買いポジションの総数量では、過去 2 年で一番低い水準になっている。
- 売りポジションの総量は 7 月 14 日までで前週より 3,483 ロット増加して、34,461 ロットとなった。売りポジションの総量は、過去 19 か月で最大数値となっている。

6. ニューヨークの売り越しロットは調整され過去 4 週で最低に (8/1)

ニューヨークカカオ先物市場において、今まで増やし続けてきたヘッジファンド等投機筋の売りポジションがかなり減少し、純売りポジション(=Net Short position)が今週 10,35 ロット減って、17,794 ロットに減少した。

- 純売りポジションは、過去 4 週間で一番少ない水準に(=売り越しが減ってきている)
- 買いポジションの総量は 7 月 28 日までで前週より 3,102 ロット増加して、35,608 ロットとなった。買いポジションの総数量では、過去 8 週間で一番高い水準になってきている。
- 売りポジションの総量は 7 月 28 日までで前週より 7,293 ロット減少して、53,402 ロットとなった。売りポジションの総量は、過去 3 週間で最大数値となっている。

⇒NY カカオ先物は潮目が変わり、価格上昇方向に転じるシグナルが出てきています。実際、先週は大幅に上げて 29 日の USD2300/MT から 31 日には、USD2400/MT まで 100 ドルの上昇を見せました。NY が先に動きましたがロンドンも同じような気配になってきていますので、今週は両市場とも少し強気で動く予測します。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp